

安全保障理事会議長声明

「中東情勢」と名付けられた議題に関する安保理の審議に関連して、2009年12月16日に開催された安全保障理事会第6241回会合において、安全保障理事会議長は、安保理を代表して以下の声明を発した。

国際連合兵力引き離し監視軍の職務権限の更新について、つい今しがた採択された決議に関連して、私は、安全保障理事会を代表して以下の補足的な声明を発する権限を与えられてきた。

ご存じのように、国際連合兵力引離監視軍に関する事務総長報告書(S/2009/57)は、第11項において「中東情勢は緊迫しており、また中東問題の全ての側面に及ぶ包括的な解決に達することができない限り、緊迫した情勢は持続しそうである。」と述べている。事務総長のその声明は、安全保障理事会の見解を表している。